

## 令和2年度 高等学校OPENプロジェクト実施計画書（3年次）

### 1 研究の概要

津別町は林業と農業によって発展してきた町であるが、近年は人口減少と高齢化が避けられず、商店街や住宅街には空き家が見られる。将来的にも人口減がさらに加速する中で、津別町の今後を担う人材の育成が求められている。

- ・ 地域の将来について深く考え、高校生を始めとする若者が、町との関わりが増すことによって、地域社会の一員としての意識が高まり、町の活性化につながるという考えのもと、津別町を学びの場とした「つべつ学」を実施する。
- ・ 地域の状況を学ぶ過程において課題を見出し、その解決に向けた地域研究を中心とした実学である「つべつ学」を実施することによって、生徒たちが、主体性や学びに向かう力、社会性、コミュニケーション能力、社会的自立心、社会的・職業的自立心などを育むことを目的とする。
- ・ この研究を通して、新たな視点で地域（北海道）の良さを捉え直し、将来的に町づくりの一人になる、あるいは遠く離れたところからでも、地域のことを考え、応援し、支えてくれる人材を育成する。
- ・ 具体的な活動としては、1年目は、現状把握及び探究活動の基礎の実践に重点を置き、主に「津別町巡検」や「北海道大学公共政策大学院との連携事業」を実施する。2年目以降は、津別町の実態研究及び探究活動の実践に重点を置き、「つべつ学ⅠⅡⅢ」（地域をキャンパスとした実学のテーマ学習）を実施する。具体的には、物事の捉え方や考え方、情報収集・整理法、論理的な考え方、まとめや発表の手法などの探究活動の基礎を学んだ後、津別町に関するテーマ学習（自然、農業、林業、酪農業、畜産業、地方自治、危機管理、歴史、福祉、ビジネス等）を実施する。テーマ学習においては、本校教員や外部講師からの授業を受けた後、実際に現場を見学し、企業や地域住民、NPO法人などの方々から直接講義を受け、これらの情報を総合的に捉え、グループワークを通して地域の抱える課題を整理し、学習内容や学習の過程において見出した課題に対する改善策のプレゼンテーションを行うとともに、参加者と意見交換を行うワークショップ形式で実施する。
- ・ 特に、津別町の行政及び産業などの関係機関、北海道大学公共政策大学院生とは、探究活動の中心である巡検やグループワークに関して連携・協働する。

また、すでに政治経済の授業の中で地域経済分析システム（RESAS）を活用した取組を行っているが、北海道経済産業局と連携し、あらためてその利用方法の説明を受け、さらなる有効活用を図る。

### 2 研究主題

「地域から世の中を探究する」～地域と大学と高校の連携をとおして～

### 3 研究の内容等

#### (1) 解決に取り組む地域の課題

(地域とともに解決を図る課題)

- ・ 津別町は林業と農業によって発展してきた町であるが、近年は人口減少と高齢化が避けられず、令和2年1月末現在で人口が4,581人、高齢化率は44.99%となっており、特に若年層の割合が少ない状況である。商店街や住宅街には空き家が見られるが、津別町が主導して「まちづくり株式会社」を立ち上げ、空き屋の有効活用や新たなビジネスを展開するなど、町の課題解決に向けて気運が高まっている。
- ・ 本校在籍生徒のうち54.2%が津別町出身であり（令和2年度4月1日現在）、津別高校出身の保護者も多いが、町内の産業や特産品、自然などについての知識が乏しい。しかしながら、地域には子どもを支援する環境が整っており、津別のことについて更に学びを深めることによって、地域社会の一員としての意識を高め、津別町を担う人材を育成することが求められている。

(地域から高校に期待されていること)

- ・ 人口減の影響が本校にも及んでおり、間口及び志願者が減少してきたが、平成8年に振興対策協議会が設置され、津別町から本校の教育活動に多大な支援を受け、存続している状況である。
- ・ 近年は、進学実績や生徒の状況などが良好であるという評判に対して、本校に対する地域住民の期待も高まりつつあり、学校運営協議会設置の動きも加速化している。若者が町との関わりが増すことによって、町の活性化につながるという町の高校に対する期待もある。
- ・ 地域をキャンパスとし、地域の関係機関と連携を図る「つべつ学」を実施することにより、地域の課題の解決と本校に対する地域のニーズが満たされる。

(2) 研究目的と目標

(研究目的)

地域の状況を学ぶ中で発見した課題の解決に向けた実践研究を通して、次の能力を育成する。①地域の住民や企業の方々との交流から生じるコミュニケーション能力、②必要な情報を様々な媒体を通して自ら見つける情報収集及び活用能力、③地域住民の話を傾聴し、知り得た情報や学んだ知識をまとめて考えを整理する力、④グループワークの中で他者の意見を聴いた上で自分の考えや意見を述べる力、⑤コミュニケーション能力、⑥調べた事柄から課題を見つけ出す課題発見能力、⑦グループ内の生徒やクラスの生徒、全校生徒や地域住民に自らの考えを発表するプレゼンテーション能力など。これらを身に付けることによって、社会的・職業的自立心を育む。

- ・ 研究を通して、新たな視点で地域（北海道）の良さを捉え直し、将来的に町づくりに関われる人材、あるいは遠く離れたところからでも、地域のことを考え、応援し、支えてくれる人材を育成する。

(研究目標)

地域社会の一員として、地域の課題の解決に向けた探究活動に取り組むことにより、地域について新たな見方で捉えることができ、このことにより、さらに地

域に対する思いが一層強くなり、卒業後に基幹産業等に就職する生徒の数が増加する。また、進学者についても、地域を離れた後でも、新たな視点で地域を見つめ直すことができるようになり、探究活動で学んだことを汎用的に地域から国や世界へと視野を広げることができる。将来的には地元の基幹産業等に就職する数が増加する。

### (3) 研究内容

(内容)

<テーマ学習>

- ・ 探究についての考え方や、情報収集・情報の整理方法、論理的な考え方、まとめと発表の手法等について、外部講師を招いて講義を受ける。
- ・ 津別町に関するテーマ（「つべつ学Ⅰ」では自然、農業、林業、畜産業、酪農、「つべつ学Ⅱ」では、地方自治、危機管理、ビジネス、歴史、福祉等）について、ブレインストーミングをした後に、外部講師からの講義を受け、理解を深める。
- ・ 外部講師の所属する企業等を実際に訪問・見学し、さらに講義を受ける。
- ・ これらの情報を総合的に捉えた中で、地域の抱える課題をグループワークで探り出し、改善策を議論し、プレゼンテーションを行う。

<北海道大学との高大連携>

- ・ 津別町の関係機関や北海道大学公共政策大学院生が主体の HALCC と連携・協働し、巡検やグループワークを実施する。その後、課題解決に向けたプレゼンテーションを地域住民や関係機関に公開して行う。

(方法)

- ・ 昨年度に実施した地域住民へのアンケート結果から、本校に対して「良い印象を持っている」と96%が回答した。特に高校生が町内行事へ積極的に参加し、「つべつ学」で地域理解を深める学習活動やまちづくりに連携した活動が行われていることに対して、町民から高い評価が得られた。今年度も地域と関わる活動を継続していく。
- ・ 生徒が地域への思いを強く持つよう、具体的な町おこしの施策を、まちづくり会社や役場の関係部署と協働して行う。
- ・ 北海道大学公共政策大学院との連携事業において、探究活動を通して津別町の課題解決に向けた提言を、町議会に提示できるように取り組む。
- ・ 地域向けプロモーションビデオの作成（地域の課題への取組、期待できる成果、実際の成果）について、町内の番組製作会社と連携して取り組む。
- ・ 本事業終了後も、「つべつ学」及び北海道大学公共政策大学院との連携事業を継続するための具体的な取組について、関係機関と連携して具現化に取り組む。
- ・ 必要な情報を共有するためのクラウド利用について、本校の情報セキュリティポリシーに則り、利用する生徒へのルールを徹底を図る。

(教育課程上の位置付け)

- ・ 「各教科」及び「総合的な探究の時間」、学校設定教科（科目）として「つべつ

(別紙様式)

学Ⅰ」「つべつ学Ⅱ」「つべつ学Ⅲ」を開設して実施

(4) 実践研究の規模

- ・ 対象は1・2年生
- ・ 1年次に「つべつ学Ⅰ」を2単位
- ・ 2年次に「つべつ学Ⅱ」を2単位
- ・ 3年次に「つべつ学Ⅲ」を1単位

(5) 研究成果の普及方法

- ・ 全校生徒及び地域住民に対して、研究成果報告会を実施
- ・ 本校のホームページにおいて、研究成果を公表
- ・ 本校のホームページにおいて、関係団体等の許諾を得た上でテーマ毎の取組を公表

(6) 3年間の研究計画

研究年度	研究内容
平成30年度 (1年次)	重点「津別町の現状把握及び探究活動の基礎の実践」 <ul style="list-style-type: none"><li>・ 行政機関や津別町を代表する企業訪問、農業体験などを通して、津別町の現状について適確に把握した。</li><li>・ 北海道大学公共政策大学院との連携事業において、探究活動の基礎を学びながら、津別町の課題を見出し、提言を行った。</li><li>・ 「津別町巡検」「農業体験」「北海道大学公共政策大学院との連携事業」(北大マルシェにおける津別町の特産品販売、若者議会)「海外研修報告会」「外部講師による講演会」を実施した。</li></ul>
令和元年度 (2年次)	重点「津別町の実態研究及び探究活動の実践」 <ul style="list-style-type: none"><li>・ 「つべつ学Ⅰ」において、それぞれのテーマについて、概論の中でブレインストーミングや外部講師からの講義により予備知識を得た後、実際に企業等を訪問して、現場を見学しながら、外部講師からの講義を受けた。その後、情報を整理し、グループ討議、クラス内発表を実施した。テーマは「自然」「環境」「農業」「林業」「酪農」「畜産業」である。</li><li>・ 北海道大学公共政策大学院との連携事業において、探究活動を通して津別町の課題を見出し、議会への提言を行った。</li><li>・ 7月22日に開催した中間発表会では、「つべつ学Ⅰ」で生徒たちが取り組んだ学習内容及び津別町についての知識を深める中で、どのように成長したかについて発表した。</li><li>・ 12月7日に津別町中央公民館において、全校生徒及び地域住民や保護者、学校関係者などが出席し、北海道大学との高大連携事業の北大マルシェ班と若者議会班から、5ヶ月間の活動の「研究成果報告会」を行った。</li></ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>2月14日に本校において、2学年生徒及び地域住民、保護者、学校関係者などが出席し、「つべつ学Ⅰ」のテーマ学習に関するプレゼンテーションを実施した。代表5名がステージ上で発表し、他の生徒はポスターセッションを行った。</li> </ul>
令和2年度 (3年次)	<p>重点「津別町の実態研究及び探究活動の実践」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度に実施した「つべつ学Ⅰ」の改善を図りつつ、1年生に対して「つべつ学Ⅰ」を実施し、生徒たちが取り組んだ学習内容及び津別町についての知識を深める中で、どのように自分自身が成長したかを発表する。</li> <li>2年生を対象に「つべつ学Ⅱ」（「地方自治」「産業（ビジネス）」「危機管理」「津別町の歴史（クマヤキ体験）」）を実施し、生徒たちが取り組んだ学習内容、及び津別町についての知識を深める中で、昨年度と比較してどのように自分自身が成長したかを発表する。</li> <li>北海道大学公共政策大学院が主体となった HALCC との高大連携事業においては、2年生が「若者議会」を行い、1年生は探究活動を通して津別町の課題を見出し、議会などへの提言を行う。12月に町民向けの成果報告会を開催するが、成果発表会では途中経過を報告する。</li> <li>地域向けプロモーションビデオを作成（地域の課題への取組、期待できる成果、実際の成果）する。</li> <li>本事業終了後も、「つべつ学」及び北海道大学公共政策大学院との連携事業を継続することを報告する。</li> </ul>

(7) 令和2年度の実践計画

実施月	実践内容
4月	<p><b>【つべつ学Ⅰ】</b> 「オリエンテーション」 内容：宿泊研修時に「つべつ学Ⅰ」の授業内容について説明及び町内施設及び事業所の見学 時間：2時間 教育課程上の位置付け：学校行事 連携・協働機関：</p> <p>① 津別町教育委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>津別町の施設や名所等（グレスデンスキー場、双子桜、レストハウスチーズ工房、野球場、ラグビー場、サッカー場、パークゴルフ場）を訪問し、説明を受け概要を知る。</li> </ul> <p>② 北海道まちづくり株式会社及び地域創生係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域活性化の起点となった JIMBA (Co-working space) や Nanmo-Nanmo (空き家をリノベーションしたシェアハウス) を</li> </ul>

	<p>訪問し、地域課題解決に向けた現場を見学する。</p> <p>③ 山上木工（東京オリンピックメダルケース製作企業）及び「ツクール」（同企業製品展示場）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>工場及び展示場を訪問し、専務からの講話を聞く。（地域における林業及び加工業の現状と課題、地元に戻ることに對する思い、町の活性化に向けての取組等）</li></ul> <p>実施場所：津別町内各施設、JIMBA、Nanmo-Nanmo、山上木工</p>
5 月	<p><b>【つべつ学Ⅰ】</b> テーマ「自然」 内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>NPO 法人「森のこだま」代表の上野真司氏を講師として、津別町の自然について実際に森林を歩きながら学ぶ。具体的には、雲海（発生メカニズム）、森林と草花、生息する動植物など。</li><li>農業や酪農などの産業が自然に影響を及ぼし、環境問題を引き起こしていたことを学び、自然と人間が共生するための方策を考え、グループで共有し発表する。</li></ul> <p>時間：11 時間 教育課程上の位置付け：つべつ学Ⅰ 連携・協働機関：NPO 法人「森のこだま」 実施場所：「ネイチャーセンター」（津別町上里）</p> <p><b>【つべつ学Ⅱ】</b> テーマ「歴史」 内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>役場職員を講師に迎え、津別町の歴史（相生、本岐、活汲）や北見・美幌との関係、郷土文化などについて講義を受ける。</li><li>道の駅あいおいを訪問し、相生振興公社マネージャーの伊藤同氏から、100 年前の製法で作られた豆腐とクマヤキの関係についての講義を受け、クマヤキ調理の見学・体験、さらにシゲチャンランドを見学し、大西重成氏から、地域での芸術・文化の必要性に関する講義を受ける。</li><li>津別町が昨年、開基 100 年を迎えた背景を理解し、今後の津別町が発展するための方策を考え、グループで共有し発表する。</li></ul> <p>時間：11 時間 教育課程上の位置付け：つべつ学Ⅰ 連携・協働機関：津別町役場、道の駅あいおい、シゲチャンランド 実施場所：道の駅あいおい、シゲチャンランド</p>

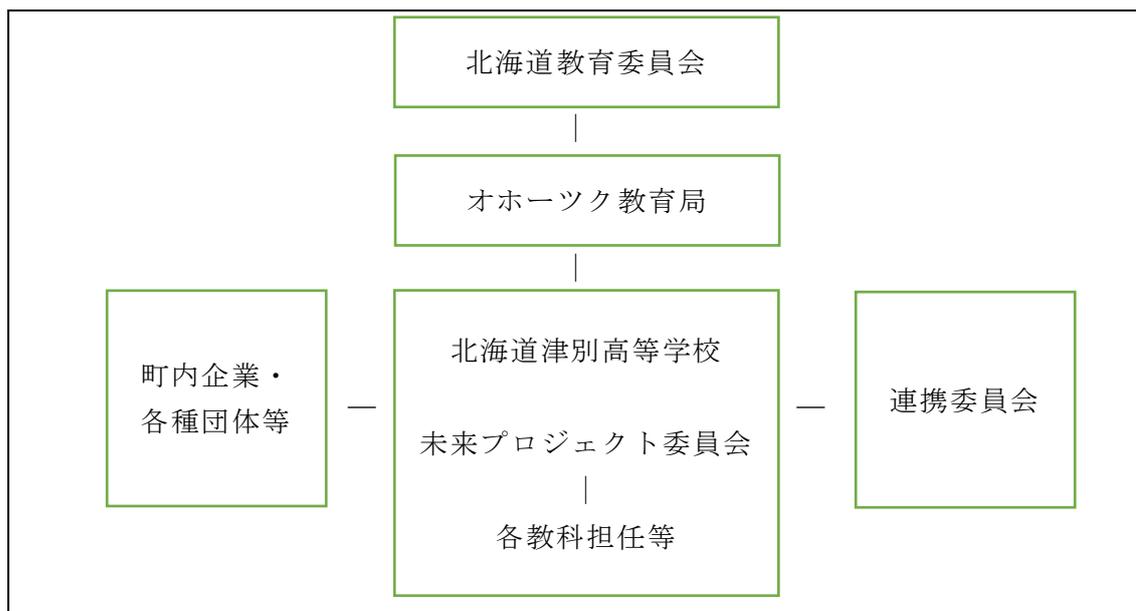
6～12月	<p><b>【つべつ学Ⅰ・Ⅱ】</b> 北海道大学公共政策大学院との連携事業</p> <p>内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 北海道大学 HALCC のメンバーがメンターとして関わり、学生の進路決定に至るまでの経緯や、大学生の就職事情等を高校生に伝える中で、キャリア教育の一端を担う。</li><li>・ 津別町の抱える課題を大学生の視点から3つに絞り、テーマ学習の中で、解決策を探り、提言する。</li><li>・ 上記と平行して、番組製作会社「道東テレビ」の立川彰氏と連携し、プロモーションビデオの製作を行う。</li></ul> <p>時間：22時間</p> <p>教育課程上の位置付け：つべつ学Ⅰ・Ⅱ</p> <p>連携・協働機関：①北海道大学公共政策大学院、②町役場他</p> <p>実施場所：本校及び北海道大学</p> <p>設備・機器：ホワイトボード、マーカー、タブレット等</p>
6月	<p><b>【つべつ学Ⅰ】</b> テーマ「農業」</p> <p>内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 「JA つべつ」の職員を講師として、津別の農業の特色（特産品、経営形態等）や津別産原材料の特産品、第6次産業などに関する説明を受ける。</li><li>・ 河本農場代表の河本純吾氏を講師として、「つべつ GROW」や「朱乃一振」の製造から販売までの過程や特徴に関する講義を受ける。また時期によるが唐辛子の植え付けを行う。</li></ul> <p>時間：10時間</p> <p>教育課程上の位置付け：つべつ学Ⅰ</p> <p>連携・協働機関：「JA つべつ」「河本農場」</p> <p>実施場所：「河本農場」（津別町布川）</p>
6～8月	<p><b>【つべつ学Ⅱ】</b> テーマ「地方自治」</p> <p>内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 前半は役場を訪問し、総合計画や行政課題、議会の仕組みなどの説明を受け、その後一人一人が各部署の業務内容を深く学び、情報を共有する。後半はゴミ処理施設や下水処理施設、バイオマス施設を見学し、3つのグループに分かれて津別町のゴミ処理問題や環境問題、エネルギー政策について理解を深め、課題解決学習に取り組む。</li></ul> <p>時間：10時間</p> <p>教育課程上の位置付け：つべつ学Ⅱ</p>

	連携・協働機関：役場、議会事務局 実施場所：ゴミ処理場、最終処分場、バイオマス工場
9～11月	【つべつ学Ⅱ】 テーマ「産業（ビジネス）」 内容： ・ 前半は商工会の嶋田憲治事務局長から津別町の産業の実際についての講義を聞き、その後町内の各企業（水上鉄工所、JA つべつ、北見信金、丸玉木材）を見学する。 ・ 後半はまちづくり会社の協力で、設立の経緯や業務内容、今後の展望についての話を聞き、まちづくり会社と共同で「津別町の魅力を高めるために」という視点で、移住促進、レストハウス、ふるさと納税に関してアイデアを生み出す。 時間：10時間 教育課程上の位置付け：つべつ学Ⅱ 連携・協働機関：商工会、水上鉄工所、JA つべつ、北見信金、丸玉木材、まちづくり会社 実施場所：同上
10月	テーマ「畜産・酪農業」 内容： ・ 「JA つべつ」の職員を講師として、津別の酪農及び畜産業の特色（特産品、経営形態等）や津別産原材料の製品、現状と課題などに関する説明を受ける。また「有機酪農研究会」代表の石川賢一氏から、オーガニック牛乳を製造するに至った経過や製品に対する思いを聞き、環境問題との関連を探る ・ 「迫田牧場」代表の迫田浩司氏を講師として、「つべつ和牛」に関する説明を、「川瀬牧場」代表の川瀬伸一氏から、流氷牛の説明を聞き、両者の肥育方法の違いを探る。また、畜産業の現状を把握し直面している課題などについて探る。 時間：11時間 教育課程上の位置付け：つべつ学Ⅰ 連携・協働機関：「石川ファーム」「迫田牧場」「川瀬牧場」 実施場所：「石川ファーム」（津別町共和） 「迫田牧場」（津別町大昭） 「川瀬牧場」（津別町豊永）
2月	実施報告書の作成

#### 4 研究組織

##### (1) 概要図

(別紙様式)



(2) 校内研究担当者

職名	氏名	担当教科・分掌等
教諭	○中井 哲哉	地公・教務進路指導部長
教諭	上田 弘恵	音楽・教務進路指導部
教諭	植木 孝洋	理科・教務進路指導部
教諭	西嶋 義裕	数学・総務生徒指導部
教諭	平子 裕	英語・教務進路指導部

(3) 連携・協働先

連携・協働先	具体的な連携・協働内容
津別町役場	見学、説明、関係機関との連携
津別町議会事務局	見学、講義及び提言
津別町商工会	連携企業紹介及び講義
JA つべつ	案内及び講義
河本農場	見学及び講義
有機酪農研究会	見学及び講義
国安産業	見学及び講義
山上木工及びツクール	見学及び講義
石川ファーム	見学及び講義
迫田牧場	見学及び講義
川瀬牧場	見学及び講義
道の駅あいおい	見学及び講義
シゲチャンランド	見学及び講義
北海道大学公共政策大学院	ワークショップ、報告会
水上鉄工所	見学

(別紙様式)

JA つべつ	見学
北見信金	見学
丸玉木材	見学
まちづくり会社	見学及び講義、協働作業
道東テレビ	ビデオ制作・編集協力

(4) 地域みらい連携会議構成員

所属・職名	氏名	備考（専門分野等）
津別町教育委員会・教育長	宮 管 玲	教育
津別町住民企画課企画G・主任	高 橋 洋 行	行政サービス、町づくり
株式会社山上木工・専務取締役	山 上 裕 一 朗	経営、木材加工、
河本農場・社長	河 本 純 吾	農業、経営、地域おこし

5 その他特記すべき事項

- ・ 本事業終了後も、地域みらい連携会議のメンバーの方々には、継続して本校の取組に積極的に関わってもらうように依頼する。
- ・ 地域みらい連携会議において、地域の変化や変化に子どもが関わった意義等について、地域の方々には自己評価してもらう機会を設定する。

6 研究のイメージ図

